



平家物語

特別
リ5
12960
5



平家物語卷之八目錄

都遷付新都沙汰

福怪

朝敵抄

久是法以

文是被流

富士川

奈良卷上

月火

子馬

咸陽文

同勅在帳

伊豆隱意

立節付都卷

小汀氏藏書



平家物語巻五

治承五年六月三日福原へ行幸なりしと
きこゆふの日未都うつりあはるゝと
しつともたちまらふら明の程とを
さつしものをして京中へ上下さ
つらあふ川さへ三日とさるめ
られたるうらひ一日ひきあ
まき二日おなりの二日
の御刻より行幸の御興を
よきをさるるにま
上を今迄に歳々幼いふまじま
しくなれいふも
なうそのまじりまじり
まじりまじりまじり

源平の争ひの汚田^{トウ}興^{キョウ}もそ母^ホ舌^{ツバ}より下^シりせぬふ
まふれぬその勢^{セキ}なり汚^{キヨ}めれと呻^{ソノノスチ}亮^{リョウ}ぬそ曰^{イハレ}
と河^カ汚^{キヨ}興^{キョウ}もそ事^{コト}さす事^{コト}々^々の中^{ナカ}一^{ヒト}位^イ上^{ウエ}皇^{ミカド}
も汚^{キヨ}幸^{キョウ}なり汚^{キヨ}政^{セイ}政^{セイ}をけ^ケ地^チ人^{ジン}をそ太^{タイ}政^{セイ}大臣^{大臣}
己^ミ下^カの郷^{キョウ}お書^シ者^{シヤ}の事^{コト}もしくと汚^{キヨ}事^{コト}をそらる^ラ
平^{ヘイ}政^{セイ}もそ太^{タイ}政^{セイ}入^イるをそ一^{ヒト}門^{カド}
のらみ子^コ事^{コト}れきり三日^{ニチノミツ}福^{フク}原^{ハラ}へりをそ
くし事^{コト}入^イるお国^{クニ}のたとうと池^{イケ}中^{ナカ}池^{イケ}を
損^{シム}盛^{シメ}つれ山^{ヤマ}老^{ロウ}皇^{ミカド}者^{シヤ}なる曰^{イハレ}日^ヒ新^{ニフ}越^エ龍^{リウ}此^{ココ}賞^{シヤウ}
とて正^{マサ}二^ニ位^イ志^シりふ九^ク条^{ジョウ}政^{セイ}の汚^{キヨ}子^コ太^{タイ}大^{ダイ}将^{シヤウ}良^{リョウ}

通^{トウ}つが汚^{キヨ}事^{コト}しられさせぬひたり汚^{キヨ}禄^{ロク}の信^{シン}
の汚^{キヨ}子^コ息^イ元^{ゲン}人^{ジン}此^{ココ}次^ジ男^ヲ入^イる汚^{キヨ}朝^{チョウ}られぬふ
ことし事^{コト}始^{ハジ}めとそ事^{コト}入^イるお国^{クニ}やうしく心^{ココロ}
かを汚^{キヨ}して法^{ホウ}皇^{ミカド}をそ身^ミ御^ミ此^{ココ}如^{コト}教^{キョウ}をそ一^{ヒト}系^{ケイ}
まて都^トへ還^{ヘン}汚^{キヨ}事^{コト}なりなりれぬ事^{コト}一^{ヒト}の事^{コト}念^{ネン}え
の汚^{キヨ}禄^{ロク}教^{キョウ}もふりてちさよの事^{コト}一^{ヒト}也^ヤをそ又^{マタ}福^{フク}
原^{ハラ}へ汚^{キヨ}事^{コト}なりなり曰^{イハレ}面^{オモテ}に鑑^{カミ}板^{イタ}して口^{クチ}一^{ヒト}罪^{ツミ}
ふらうらふと曰^{イハレ}れりてをそ汚^{キヨ}くけをそ
あつ事^{コト}不^フ慮^{リョ}の事^{コト}一^{ヒト}をそ取^{トル}回^ヘ大^{ダイ}丈^{チヤウ}経^{キョウ}並^{ナヒ}計^{ケイ}
そ山^{ヤマ}けりたやそ人^{ヒト}の事^{コト}一^{ヒト}をそ一^{ヒト}が汚^{キヨ}

もふも世に^{ワシ}童蒙^{トウモウ}なるとも終の^{ヒト}流^{リウ}取^キとらうりけ
あふくもいふく^ウあさま^{アサマ}あ^アの^ノう^ウあ^アの^ノう^ウあ^ア
ともなり^{トモナリ}法皇^{ホウオウ}とを^トを^ヲの^ノ政^{セイ}を^ヲ志^シる^ルし^シの^ノま^マも
や^ヤあ^アも^モ落^{ラク}も^モた^タは^ハめ^メの^ノよ^ヨら^ラた^タく^ク山^{サン}こ^コも^モ
終^{シマ}め^メし^シて^テ流^{リウ}あ^アく^クろ^ロれ^レま^マく^クよ^ヨた^タく^クさ^サ備^ヒも
や^ヤあ^アそ^ソ作^{サク}ま^マる^ル平^{ヘイ}家^カ代^{ダイ}魚^{イサ}行^{コウ}み^ミを^ヲひ^ヒて^テま^マこと
こ^コし^シと^トま^マさ^サく^クま^マら^ラし^シめ^メま^マぬ^ヌま^マぬ^ヌの^ノ安^{アン}元^{ゲン}よ^ヨら^ラし^シの^ノま^マも
あ^アく^クれ^レ大^{ダイ}臣^{シン}の^ノ心^{シン}を^ヲあ^アり^リし^シて^テ或^ワを^ヲう^ウり^リた^タひ
笑^ウ白^{ハク}た^タの^ノし^シを^ヲて^テま^マの^ノ舞^{マユ}を^ヲ笑^ウ白^{ハク}み^ミな^ナく^クは
旨^シを^ヲ城^{シロ}南^{ナン}籠^{リウ}み^ミに^ニま^マく^ク六^{ロク}め^メを^ヲり^リ割^ワり^リ二^ニ子^シ

も念^{ネン}え^エう^ウら^ラな^ナを^ヲこ^コの^ノこ^コる^ル取^キや^ヤこ^コう^ウの^ノま^マ
かれ^{カレ}や^ヤの^ノや^ヤう^ウの^ノま^マの^ノま^マの^ノま^マの^ノま^マの^ノま^マ
都^ツ遷^{セン}を^ヲこ^コの^ノま^マの^ノま^マの^ノま^マの^ノま^マの^ノま^マ
中^{ナカ}を^ヲ地^チ神^{シン}又^{マタ}代^{ダイ}の^ノ帝^{テイ}の^ノま^マの^ノま^マの^ノま^マ
あ^アの^ノま^マの^ノま^マの^ノま^マの^ノま^マの^ノま^マの^ノま^マ
冬^{フユ}玉^{タマ}依^ヨ姫^{ヒメ}海^{カイ}人^{ニン}れ^レび^ビす^スあ^アの^ノま^マの^ノま^マ
流^{リウ}汗^{アツ}う^ウけ^ケ人^{ニン}代^{ダイ}百^{ヒャク}王^{オウ}乃^ノ帝^{テイ}祀^シな^ナら^ラか^カは^ハや^ヤれ^レと
皇^{クワン}乃^ノ歳^{サイ}日^{ジツ}白^{ハク}國^{クニ}文^{ブン}崎^{サキ}郡^{クニ}よ^ヨし^シて^テ皇^{クワン}王^{オウ}乃^ノ葬^{サウ}祓^{ハヒ}を^ヲ
流^{リウ}ふ^フ五^ゴ十^{ジュウ}九^ク年^{ネン}と^トい^イひ^ヒし^シ流^{リウ}り^リれ^レと^トの^ノひ^ヒは
志^シ乃^ノと^ト十^{ジュウ}月^{ゲツ}は^ハ東^{トウ}征^{テイ}し^シて^テ皇^{クワン}王^{オウ}乃^ノ葬^{サウ}祓^{ハヒ}を^ヲ

國子とくまのまは法大和國とる付ふる部信
乃山を然して帝都をたてしつゝ乃地
跡まら掃つて家室跡はくま路つるま是の
しんはく乃まとははきふるまうまは
代く乃帝王まやこを他國地取へうらさる
ふま一三十度小のまうま四十度ま及るり祿
武天皇より皇御^{ケイ} 天皇まへ十二代を大和
國まほりまくま都をまてく他國へまは
ようはままを成務ま皇元はまを江
國まうはつて志賀のまほりまみやこをた

はまのまのほまうて清門くままを
はくまのま神功皇太后をまはくまを
ひ女帝くして皇累も藤原ままへまは
まをのひたり英國兵軍をまはまを
まのま後統乃國之皇まほりまうて皇子は
延生やつてそのまをのままをま
まもまのまはくまの幅のまはまは
位まはのまをまはくまの皇まをま
のら神功皇太后大和國まうはつて
攝まおのまはくまの皇まを同國極鳴のま

みやこ入りすまをぬふ縁を桓成天皇
應仁三年十月三日なり此東表日里より山城
國長尾よりほくて十道といひし三月
小尾九条河原大弁紀出油義大僧部玄慶
を所りて南國葛野郡宇多村をんをら
びくみぬるともよそしといふくまの地
のていを見ゆは左馬路衣白虎前朱雀後玄
神お慈の地なりむ部部なりしじり
たきりちやをりて屯岩のふぼりみね
とていもつた大の神ははとをさるる

延暦十三年十一月廿三日長安より上りの
京へうのさきて帝を三十二代聖徳太子
百八十餘歳に衰杖をくくりむらさき
に己未代に此河内國に越へおがの部の
をうりてさきしつりたてしその勝地
をたしと桓成天皇の御子執しおり
て大信につたるれ方人より作て長久なる
つたやうとてさるは天此人新をほく
くろりの鎧甲をさき同う鐵乃り去を
ももきて未代とつふとも此京を他國地

るうけとてつゝやち播種となつてじとち
うひほく東山の峯^{三子}に毎じとよたてつてさう
けまれちのさねをま下ふことかあんとて
そい塚りるゝと^{大イ}つ幼す^{トウ}の軍のほつとてと
よあり^イ純中一は東を^イ平定城と名ほきて
たつゝつおやとまもやあやりあつて平定
のありのびつが銘ろつゝ板成を直と甲を平
定の^イ巽祖とてたつゝます^イ先祖のつとんりさ
しも^イ執しおほつゝのさき進けるもやこをほ
ちるゆへなうしてああくたちよへうつさ

進けるそのさまあつた一進^イ嶮^イ嶮^イ皇帝のつ時
平城^イ之帝^イ為^イ侍^イのすくめよあつて^イ既^イよあめ
京^イを^イ他^イ國^イへ^イう^イけ^イさん^イと^イま^イを^イな^イひ^イつ^イとも
大^イ后^イ乙^イ姫^イ祐^イ國^イれ^イ人^イ民^イう^イむ^イさ^イし^イう^イも^イう^イけ
さ進^イり^イて^イや^イま^イも^イさ^イ一^イの^イ君^イ美^イ家^イの^イあ^イる
志^イさ^イん^イう^イつ^イし^イの^イ給^イも^イあ^イ都^イを^イ入^イさ^イあ^イ國^イ人^イ信^イ
れ^イ方^イと^イして^イ悔^イさ^イ進^イけ^イる^イそ^イ後^イあ^イり^イ子^イ舊^イ都^イを^イ
あ^イも^イ進^イめ^イる^イ序^イの^イ里^イほ^イろ^イも^イや^イら^イう^イの^イ王^イ城^イ
つ^イ後^イの^イ鏡^イも^イち^イ方^イよ^イひ^イの^イ里^イを^イ登^イも^イつ^イけ^イ美^イ
鏡^イの^イ勝^イの^イち^イる^イを^イ上^イ下^イも^イつ^イつ^イの^イを^イな^イつ^イへ^イあ

三百姓義民王のうらひなくス幾七道も役を
さまともしを過こぼるとまわて車なとのた
やとうゆさうふこともなくぬまさうおれ
人お小車よりみり酒をくうとぬまあ
まねをわうそひ一人の位名日をもほく惹
ゆくぬくち安海河桂川よこがらつれつり
たにともうつる質財雜具每ふけみ福原へ
とそしあひくさそたくなりよ花の都ぬお
およなりさうつるゆれなに老れ志まき
るやわりせんもらさうやふの肉裏れ

らる二首のうらひさう書付まる

百まを口つる百まをすりまきり
をたまけ里のあまやつそなん
うれいほるぬれみやこそやうさ
風あくつるのすあうあやうさ

三ト

同六月九日新部乃とけい絶あるアしと
て上つよを極大右左大将美定孫お清門喜
お中一將通親つを初此年よを左お并以
陸おかや乃友人とも絶く一掃洋国和多
乃松魚酒の野を然く九城の地をよき

けるよ一糸ふると又糸まてさそのの取あつて
るまふるとたもやたりのまきりめり事なふり
糸てはふりを養費をいふも揚慶の糸苗野
う。根揚は國のふを野うなとこつ愈強あり
しうともまゆくこしとも見くさるるたり
舊都さすてふうのまぬ新都やまゝる事ゆり
もろりともあふ人をみふ方をうまふれど
城なりりとの取ふまむじんを地を去けて
うまへつてうけらるるを去本のまつてひ
城かけさあへるまへてたて居れやうま成

志事なかりと清門まわ中一将毎親つの中
さま建ける英國よま三糸入意路を昇て十二
洞門をたつと見えらるるんや又糸まを
わくむ部小たつる肉裏をたてさうつあかど
と芝里たつとほくくらるる一と後まきり五
線大畑を國經つは河よ国防國をぬて芝を
きりおへきり入さお國もららひ甲さま
かりあつて國經つと甲をたつひなま大福長
者まてましくたれ肉裏はくま出さま建む
うや左なるまよもひともいんうたの

よきつよのそを漸ヤカクなうしふなりゆけし福原
此新部トよまうしく人多く名取の取をみん
とて或や徳成乃大將のむゆこれゆを思
はく須度スよりまうししれうははひ淡路
れなさを押まうしと繪嶋エのつう乃月沼みる
或を白浦シラ吹上和秀乃うう恒吉なふしうの
さこ尾上れ月乃ゆをほのをなうゆそりゆ
子人キをあり舊部キよのこふんをやう又彦ヒ
津乃月カをさるるわらうと徳太吉の左大將ジ
是部テをさるるれうやあめ月をさひはく八月

十日あつたよ福原よりそその不聖路ふなに
こともみふうしとまうしとまれお跡るぬを
口およまゆのぬしと海上落志シけしよもさ
うそ海あさちり取高乃やととと意して
虫のこゑくううみはく若草ワカクサ忌蘭イランの聖意
とそなりよけう故つツの節波とてやを縁河
原乃大まうしとまうしとく人多く大將そのゆ不
る事わえ路ツ方をもつて熱門ネツ道ミチたけのき
ふれと肉ニクより女メの祥サマをたそや蓬生モウシ乃ノ
うりもらふ人もなき雨アメとととのむねもき

を福原より大將政の法乃ぼりしゆやちと
そくせんを志やうのさくきそふくそ
東面の小門よりいを流くとちも進む大將
さうもして東に小門よりい進む大
まを流つれくふせうとやおほく
おさ進むん南おもての流格子あきさ勢流
勢流あうしと進むるあへ大將けつとあ
進むるうつりやつふゆありやうはくうの
るら進むるう原きく徳成乃う治のあを
うしうくのまやの流むすあ秋乃ふくを

朽一みはくひを志くくもそく
としまし終ひくふらりあのみれ出けるを
ただくまやたをしきんちうまてまひ
かんもつらう智ひと進むれまらひ
の小約ていとち女房もあつた流あうゆれ
きる押は女房を待らひとりたる事へ感
あふうとまらひのるあつたのまら
あつたまらと原なつたの女ら
まらひのあゆくひ乃とまら
あつたのまら

さそくろう 待よひとをめいせいせられ 大しやう
あめ女とうをよひ出せきうーとのものが
らうとも志めひてのちあらを 漸スグ文ゆきをむ。
あらし都乃われめをとせうよしうーい
もれけきうるれもあをさうそみ進ちあさい
ちうけくとうち進よける月れひのうをを
まれくそらぶ風れそそあま志じとを
うアしをーうるーと進うーひとゆさ進た
らうけましたまをけし進をを清雨申れ
女とうちうられ神をそめくし進けくうを

あそ母也もやうく明ゆら大ぬりてさ
甲けく福原つうゆられたる供入山苑人
頭進て待進う何とやらんあまらよ館後
朽けよえくけさる海うる進てともうう
もいひくふよと進くを苑人しう里進る
て進る大將波乃甲まを作とて
あつちと進のソひんとうまれねめ
けさうもあうのうううううらん
女とうとうあつす
ましやうう海ゆくうなめしううあ

おいのこへむつく討たる討せとつとよ
ひなとしけつスあふお入るお團帳モウ巻キり
いてく書戸を押ひくまはかぬうらをみく
まへを死人の志やれうへをのいろと
ひふねを志くを坪のうらふみりくで中
なりををさへうらひおもさならや中へ
ころひ入ころひのひふろひおひおひく
しううううあひつつけまて入さお國人や
あふくころあまおされともおりう一人も
ふりくをうく志くあかぬりくころともひ

ひとけよおこまらあひけかれ肉おしうこの
おぼとよがうてたのささす十口おおもある
らんとあかゆる山のことくになりまたり
ほひとけの大鼓よひこころ人の目やう
お大の眼の手あか来て入る大お團帳をさ
とあうまへ志ししんまひこまをます入さ
ちとごささうのせちやうとあうまへしたく
まならもまてしりの大鼓あさるまよほようみ
らまれておるなとの目おあひつてさゆさ
おさうよつむおひもなくなわりまきうと入さ

お國の一代厩ウマヤも多て〜ひ下ヒカなくなて〜し
まけり馬の尾ふねすも一敷イツクれ中ナカは果ミを
〜ひ子ヒコを産ウマらるまきりあまは〜こしりあ
らひハラヒはあふ〜しとて神祇カミヤ皃シりて七人
の陰陽師インヤウジを〜てううな〜さらぬくよお
も〜はけ〜しと〜ううなひ〜あのみ馬を
お換カヘ國乃クニノ仁人ニジン大庭オホニジマ三席サンセキ家親ケカネの來キハ苗圃ヒナブ園一
のふと〜入道ニチドウ大お國オクニへ〜つを〜らるる
〜や〜あふるの教ウチカヒ〜あ〜らるる名を〜望モチ
月ツキと〜し〜まきり陰陽インヤウ歌ウタ安部ヤシロ恭親キムキミぬてけ

〜ひも夫ウサ當トウ己ニ皇ミコの侍シと〜業ウヂれ侍馬シマ乃
吾オレみ一敷イツクのうりも祿ロクすも巢ウラを〜ひ子を産
〜らけり〜を英國イギリス乃ノ画賊ゲカクか〜ら〜たりと
う日本ニッポン死シるをみ〜る里サト々々又マタ雅カミヤ頼タカつ〜人ヒト并ナラ
おの〜けり〜つ連ツルりる善セ徳トクの〜る〜ける爰ココ
もおろろ〜らるる〜た〜るも大内オホウチ乃ノ神祇カミヤ
皃シとおほ〜〜雨アメ下ノ果ミ帯オビた〜〜上ウヘ嶋シマのあ
ま〜ま〜して強ツヨク是ココれや〜なら事コトれあ〜ら
〜未マダ座ザなり上ウヘら〜乃ノ平ヘイ家ケれカク人ヒト志シ路ジふと
〜切キり〜まをその中ナカ〜ら〜して馬ウマを〜らるる枝

書信^セ由^ニあり申^スるにわれをりのから上^ニ福^ニよ
てま^ニく^ニい^ハやらんとく^ニひ^ニを^ニ進^スめ^ル者^ト鶴^ト大
明^ノ神^トと^シて^ハい^ハふ^ニこれ^ハ故^ノ産^ト上^ニよ^キこ^ノり^キ
なる^ニ浮^ル者^ト老^レれ^マし^クく^ニく^ニく^ニ日^ニ桑^ノ平^ノ院^ト
の^ニあ^リつ^ルる^ニは^ハり^テ節^ノ力^ヲを^シと^シて^ハさ^レて^ハ伊^ノ豆^ト
國^ノの^ニ人^トを^シて^ハ法^ノ依^テ頼^リる^ニよ^キも^トふ^ニす^ルな^らむ
と^シて^ハ保^ルけ^ルる^ニこれ^ハ浮^ル者^トを^シて^ハ老^レれ^マし^ク
ま^ニけ^ルる^ニも^トら^ニを^シる^ニ孫^ノを^シて^ハた^へし^ク
と^シて^ハ保^ルけ^ルる^ニ書^信の^ニう^らふ^ニあ^れば^ハ保^ルけ^ルる^ニ
と^シて^ハ保^ルけ^ルる^ニ孫^ノ力^ヲを^シて^ハ頼^リる^ニよ^キも^トふ^ニす^ル
と^シて^ハ保^ルけ^ルる^ニ孫^ノ力^ヲを^シて^ハ頼^リる^ニよ^キも^トふ^ニす^ル

お^のく^ニそ^ノい^ハ暢^ト大^ニ美^ニ慈^ニの^ニ後^ヲを^シる^ニま^ニこ^ノり^キ
た^へし^クと^シて^ハ保^ルけ^ルる^ニま^ニ日^ニ大^ニ神^ノの^ニう^らふ^ニ
老^ノ翁^トを^シて^ハ武^ノ内^ノ大^ニ神^トと^シて^ハま^ニふ^ニと^シて^ハま^ニし^ク
着^ルあ^れぬ^ニと^シて^ハま^ニふ^ニと^シて^ハま^ニふ^ニと^シて^ハま^ニふ^ニ
國^ノの^ニれ^ニま^ニふ^ニと^シて^ハ保^ルけ^ルる^ニ大^ニ判^ノ友^ノを^シて^ハま^ニふ^ニ
て^ハ保^ルけ^ルる^ニこれ^ハ保^ルけ^ルる^ニま^ニふ^ニと^シて^ハま^ニふ^ニ
なる^ニ保^ルけ^ルる^ニこれ^ハ保^ルけ^ルる^ニま^ニふ^ニと^シて^ハま^ニふ^ニ
保^ルけ^ルる^ニこれ^ハ保^ルけ^ルる^ニま^ニふ^ニと^シて^ハま^ニふ^ニ
書^信の^ニう^らふ^ニと^シて^ハ保^ルけ^ルる^ニま^ニふ^ニと^シて^ハま^ニふ^ニ
心^ノ入^リさ^レお^の國^ノ乃^ハ亭^トへ^テま^ニふ^ニと^シて^ハま^ニふ^ニ

のつす^上と陸し^上りさ^上ま^上せられしその後や由
法をたくりきりなふらうとも又不志^上議^上なり
志^上こ^上し^上ま^上を^上清^上感^上つ^上る^上宗^上藝^上当^上た^上り^上と^上す^上神
孫^上の^上い^上り^上く^上も^上矣^上夏^上を^上養^上て^上教^上嶋^上大^上明^上神^上より
う^上は^上く^上ま^上給^上り^上ま^上さ^上ら^上ま^上り^上報^上の^上む^上る^上ま^上さ^上
志^上こ^上ふ^上小^上島^上刀^上つ^上の^上乃^上ま^上く^上く^上を^上も^上明^上た^上を^上立
られ^上ら^上ま^上り^上あ^上る^上無^上依^上ふ^上事^上も^上た^上り^上く^上
少^上り^上ま^上な^上れ^上平^上家^上日^上く^上ら^上く^上の^上島^上に^上浮^上り^上て^上の
つ^上て^上ま^上下^上に^上お^上ち^上護^上ぎ^上し^上て^上も^上と^上を^上勅^上命^上り^上色
有^上ぬ^上ま^上さ^上し^上節^上刀^上を^上も^上ゆ^上り^上の^上色^上に^上お^上く^上ま^上や^上心

アホバガイヤム

ほ^上う^上く^上そ^上ま^上こ^上こ^上ら^上し^上か^上ら^上ま^上を^上聖^上の^上お^上と^上し^上
け^上り^上ま^上お^上入^上き^上成^上就^上の^上事^上を^上つ^上く^上て^上あ
ら^上く^上や^上平^上家^上乃^上を^上あ^上や^上う^上く^上す^上と^上な^上ら^上ぬ
ふ^上や^上教^上嶋^上大^上明^上神^上の^上平^上家^上の^上本^上人^上志^上ぬ^上ふ^上と^上云
も^上その^上の^上い^上つ^上ま^上り^上に^上あ^上の^上教^上嶋^上大^上明^上神^上を^上油
鞆^上に^上給^上玉^上の^上才^上三^上の^上娘^上を^上な^上れ^上し^上女^上神^上と^上し^上う
取^上ま^上い^上幡^上大^上美^上彦^上に^上節^上刀^上を^上損^上朝^上と^上多^上し^上ふ^上と
作^上られ^上け^上る^上も^上し^上り^上なり^上ま^上日^上大^上明^上神^上の^上ま
後^上や^上り^上の^上ま^上こ^上し^上み^上色^上さ^上ひ^上ら^上へ^上と^上作^上られ^上ま^上る
し^上う^上ん^上ぬ^上れ^上も^上平^上家^上乃^上の^上徳^上氏^上の^上を^上け

きなん乃り大織冠（シメツク）の侍す也（シメツク）柄籠（シメツク）のきん
たちれと下る將軍（シメツク）なるのみふつてふかのなと
意ひける物系（シメツク）或傳（シメツク）の来らるるの中なる
をうれ神（シメツク）的（シメツク）と和（シメツク）克（シメツク）悉（シメツク）治（シメツク）の方便（シメツク）あらし
ましるを（シメツク）或時（シメツク）を女神（シメツク）ともなり又或河を
借（シメツク）神とも現（シメツク）志（シメツク）路（シメツク）へ（シメツク）里（シメツク）まことふふの若嶋大
明神を三（シメツク）的（シメツク）六（シメツク）通（シメツク）の靈神（シメツク）とてましる（シメツク）祭（シメツク）を借
神と現（シメツク）し終（シメツク）もんことをもつてつる（シメツク）つる
あつすとそ甲（シメツク）けつる（シメツク）とせしむるひゆし
のみりよ入（シメツク）給（シメツク）つしひるよ故世（シメツク）美（シメツク）提（シメツク）れ外（シメツク）を

又傳事あるましきことなまとも善政（シメツク）を
てを感（シメツク）し然（シメツク）を穿（シメツク）てをなまともまじふ人
岡代（シメツク）なりひなりとさるほとす一（シメツク）回（シメツク）九月二日
お接國（シメツク）代（シメツク）恒人（シメツク）大（シメツク）志（シメツク）之（シメツク）亦（シメツク）京（シメツク）親（シメツク）福（シメツク）急（シメツク）へ（シメツク）子（シメツク）馬（シメツク）を
もつて甲（シメツク）つる（シメツク）ちま八月十七日伊豆國（シメツク）乃（シメツク）派
人（シメツク）おたも長（シメツク）傳（シメツク）依（シメツク）頼（シメツク）物（シメツク）婦（シメツク）父（シメツク）如（シメツク）京（シメツク）河（シメツク）政（シメツク）を
らして伊豆國（シメツク）の目代（シメツク）和（シメツク）泉（シメツク）末（シメツク）友（シメツク）兼（シメツク）をを
牧（シメツク）の銀（シメツク）をて敷（シメツク）うらよ討（シメツク）以（シメツク）ぬ（シメツク）その恒（シメツク）と肥（シメツク）と
を（シメツク）是（シメツク）傳（シメツク）をくしてのやして三百（シメツク）箇（シメツク）濟（シメツク）石（シメツク）橋（シメツク）山（シメツク）小
指（シメツク）終（シメツク）はてしなくを京親（シメツク）はあ志（シメツク）を存（シメツク）する者

とも一十餘騎を引参りてをりてをりてをりて
もきめり入るる無儀依止行の七に跨りうり
なさま大まうしよたくりひなつてお肥の
松山へあきこもり作ぬ島山又百餘騎を誘
おを誘ふ三浦大ゆり子とも三百餘騎を誘
成りてをりて湯井小坪れううてせめた
うふもさげ山つくとにまきて茂蔭園へ引
しうくうれ後もさげ山の一族河朝縮毛
小山田は戸望井越して七黨の共ともこと
あつておありわひ都合その勢と十餘騎み

浦安望の城キヌカキをりて一日一戦きめり

ひいほとみ大ゆり子ともをりて
りり漢の浦より舟よきて安房上総へ
里ゆめしうち中れ平家の人々都うけり
をりてや奥さめぬものさつ政上人をさ
をりてくしうやのにおしりの志り建討手
ひのちふなとつふうらなさま島山をりて
徳小山田利直もま守津ま左衛門尉トモも
そ大番後もておつとや一左衛門尉もり
もりてま山甲けりてさううなりてゆなれ

小糸や志りゆりす自家に業をうも給敵の
かこつてを仕ゆらたくとふらしめ
をふじもるものをとせぬけよとや申
人もらりつやしくたつて浮大車一よ及
ゆなんすこさくやぐんもありけりとの
や入さお困りつられけりやうなめめな
を採枝損約をを平治元年十二月父朝の
謀叛よりつてすまは珠きくおへのまを
池原尾のれりよなけさぬさまふ河原飛
りやなごえられたんがり候ふうれ思を

忘もて商氣よむつてり強むふ夫強し
川よりう有なれそ難なるも神助と三巻も
つりてうゆりゆふつふ只今乞人費り
ゆらむすら頼約りぬとそ喜ひきく採枝約
よてうてい地母まらる事へ神代帝人法
言口に記列名ま郡高雄村よ一のちうう
方頼是長しそちりう人よそくまらる人氏
おがを換客きしそ友軍向しそ意名
らそりも舊人綱をじもきてはね母あれを
おがひらるまらるまらる来野んをさうそ

さんて朝城とほろがさんとすり穿大石山
凡大山王子山田石河屋大居我入
友志友文屋文回摺逸成状上河次伴縁親
大業お氣孫原廣翻意義押勝子良大子井上
廣之藤原仲成牟将門藤原純友安倍久仁宗
但あ馬も源親親魚左舟魚東門替まの
ふまへうれ物まへては女名人さ建とも一人
どして素懐とやとろそのなうみふ穀を山
野よさらし首領獄門に掛らるまをさう王
位をひきまのりけまむしを益名を向て

うとまれし祐うるま本もだちまら小花
美なりとふも志うひまを以れ奉うり
し迄長清門神泉苑へ移幸なつて池れけ
小醫れ居ら上げりを去位を免てあれは
死免てま建と作けまといのんうとくじと
そ智ひたれとも編言なれし何ゆまむらふ
され羽ほくろひしとくじとを益有うり
作すれしひくじとひさうるますあつら
河東てふいしをうとれい母の益名も隠け
あつらうるこそ神妙なれやうくみ位ふあさ

とてさういふ位もうおさ進まらるるやふらうと
乃らあまされ申し乃王なるよしとつた清れ
をわういひつてさひは付てそとをたきぬふ
金^{ニシタク}をさへたけ料^{ヒラ}をわうすたて玉^{ニシタク}
れ^{カシヤリキウ}はとるしめさじのたなり又吳国
ふ^{セシ}をとふらふ^{セシ}の太子丹^{ニシ}秦始皇^{ニシ}
す^ト囚^トられてい^{ニシ}ま^{ニシ}めをううあること十
二^{ニシ}あ^{ニシ}るとさ^{ニシ}慈^{ニシ}丹^{ニシ}をみるご^{ニシ}た^{ニシ}のつくと^{ニシ}
好^{ニシ}つ^{ニシ}も老母^{ニシ}ありて^{ニシ}ま^{ニシ}を^{ニシ}終^{ニシ}と^{ニシ}進^{ニシ}を^{ニシ}み^{ニシ}
と^{ニシ}う^{ニシ}た^{ニシ}け^{ニシ}さ^{ニシ}ら^{ニシ}る^{ニシ}如^{ニシ}皇^{ニシ}帝^{ニシ}あ^{ニシ}さ^{ニシ}し^{ニシ}て^{ニシ}海^{ニシ}は

船たりんこと馬に角生つと^{ニシ}その^{ニシ}叩^{ニシ}と^{ニシ}志
乃^{ニシ}な^{ニシ}る^{ニシ}を^{ニシ}待^{ニシ}つ^{ニシ}た^{ニシ}ら^{ニシ}な^{ニシ}ら^{ニシ}と^{ニシ}を^{ニシ}喜^{ニシ}ひ^{ニシ}け^{ニシ}る^{ニシ}慈^{ニシ}
丹^{ニシ}夫^{ニシ}よ^{ニシ}あ^{ニシ}ふ^{ニシ}地^{ニシ}は^{ニシ}あ^{ニシ}て^{ニシ}終^{ニシ}と^{ニシ}を^{ニシ}る^{ニシ}す^{ニシ}
け^{ニシ}のお^{ニシ}ひ^{ニシ}う^{ニシ}と^{ニシ}の^{ニシ}歌^{ニシ}ら^{ニシ}な^{ニシ}ら^{ニシ}て^{ニシ}た^{ニシ}人^{ニシ}と
一^{ニシ}考^{ニシ}本^{ニシ}國^{ニシ}へ^{ニシ}の^{ニシ}色^{ニシ}け^{ニシ}て^{ニシ}母^{ニシ}を^{ニシ}見^{ニシ}ん^{ニシ}と^{ニシ}を^{ニシ}祈^{ニシ}ら^{ニシ}る^{ニシ}
う^{ニシ}の^{ニシ}女^{ニシ}音^{ニシ}美^{ニシ}花^{ニシ}を^{ニシ}靈^{ニシ}山^{ニシ}津^{ニシ}と^{ニシ}治^{ニシ}し^{ニシ}て^{ニシ}不^{ニシ}孝^{ニシ}乃^{ニシ}
孝^{ニシ}誅^{ニシ}い^{ニシ}ま^{ニシ}る^{ニシ}の^{ニシ}孔^{ニシ}子^{ニシ}教^{ニシ}回^{ニシ}を^{ニシ}支^{ニシ}那^{ニシ}震^{ニシ}と^{ニシ}は^{ニシ}出^{ニシ}て^{ニシ}
忠^{ニシ}孝^{ニシ}の^{ニシ}み^{ニシ}ら^{ニシ}を^{ニシ}も^{ニシ}と^{ニシ}災^{ニシ}治^{ニシ}ふ^{ニシ}冥^{ニシ}路^{ニシ}の^{ニシ}三^{ニシ}賢^{ニシ}孝^{ニシ}乃^{ニシ}
れ^{ニシ}志^{ニシ}を^{ニシ}あ^{ニシ}つ^{ニシ}進^{ニシ}ひ^{ニシ}の^{ニシ}ふ^{ニシ}こと^{ニシ}な^{ニシ}進^{ニシ}ら^{ニシ}る^{ニシ}ふ^{ニシ}終^{ニシ}乃^{ニシ}
お^{ニシ}ひ^{ニシ}て^{ニシ}ま^{ニシ}中^{ニシ}に^{ニシ}ま^{ニシ}り^{ニシ}つ^{ニシ}と^{ニシ}の^{ニシ}し^{ニシ}ら^{ニシ}志^{ニシ}る^{ニシ}

を成て燕のの本小すめり姫皇帝鳥歌
る百の愛はたろまらんらんらるる
しをあの信して太子丹をなすおはく
國へしうせさ進も進姫皇帝をさやし
て秦國と燕國のあひしは燕國といふに
わりたなら河なり進たり好川よまら
橋をし燕國の橋といふ姫皇帝に友軍を
けつして燕丹のまらむとふ河の中
しをぬまらおつるやうおさくく
多さ進らとたれやならつるよの
か河

中一りておちつるぬと進もらつとも水
ろ色あがねと平地をゆくのこらにて
のひれまらけふまけらあやりの
おもひくうろを敵らとたれぬとも
くるとのふらととすおれうお
進ま甲をなすくそあま塔たの上ける
も孝めののんを異類のあもれひ
まらつてなり燕丹又うみをぬら
皇帝よ志つるす姫皇帝友軍を
て燕丹城わろかさるるらんちさ

たうまを致くつて荆柯ケイカといふは昔ももの紙
のころひ大后ふなと荆柯ケイカ又田エシ克セキ生セキと云
はるものをひくくらすよみえ生セキりけるるるん
あの方のりううさうんからし事を知る
めしてゆくわたのそ原ら致くうまらんを
千里紙とるとも老ぬま鶴馬トウバうを物モノ礼レり
あの方やうと老てつふもひひあし治セシ
すら雨らき雲を澄くはてうまうそつや
て既よいてんといふれしけいひの袂タビ紙シひの
つとわれしこあのこと物モノ落ロクとなといひ

これ人を國の死を人になううをまきぬる
よ過くうあつうなまきとて荆柯ケイカの口あ
なり季キの本ようとつえあううら碑イサヒて
うう碑イサヒよけう又樊ハン於コ石シといふは昔も者あり
あまち秦シ代國クニのこのなりし始皇シ代ダイたう
よ父ヤ伯ハク叔トク兄ケイ才サイほろがさきて燕セン代國クニよ水スイを
發ハツぶ如ニ皇帝テイ曰イハ海カイよまをなうとて燕セン代國クニ
揚ヤウ島トウ并ヘイよらんをさう首ウシをもつて集シりたる
しとる者よを五百イハの金をあつてつんと持ヒ
るさうら荆柯ケイカもんをさうとてやよめりて我

ましく海らうひみ百まんり連も推きしれど
かななんちうくひひ連より勢をて如皇帝
にまうむらうあんで穀菽類をられずとま
細をぬりくひひをまうむらうとなん
とひひけ連よりんゑまをりあふまを
まありの皇太息はめて中々わ我如皇の爲
ま父伯父兄才をそまきて無畫あれを思ふ
にふはばいりしうけて思かこまことた
如皇帝うけりつら孫丹をひてまらうの首あ
たへむらうや^{チリヤクダ}養育するまやと一やてまらう

ら首領もひてそ死ふらるス^{シニ}秦^{シニ}秦陽と云共
らうこ連も秦^{シニ}國の衆なりし十三のこ
款を討て燕國へ^{シニ}送こもりむら連の^云嘆てむ
らふやまをえら子をもりりりりりり
むらふ河や大の男も^{シニ}逃入を荆河の連^{シニ}秦
の部れ^{シニ}秦由老ふりてゆく小あるかこ山
ま^{シニ}と小者ししうけり^{シニ}費うれ^{シニ}造ちり^{シニ}三^{シニ}里
ま^{シニ}爰^{シニ}纒^{シニ}まらを^{シニ}受て^{シニ}個子^{シニ}をもつて^{シニ}本^{シニ}意^{シニ}の^{シニ}奉
ま^{シニ}うら^{シニ}な^{シニ}ふ^{シニ}ま^{シニ}款^{シニ}の^{シニ}明^{シニ}く^{シニ}を^{シニ}味^{シニ}なり^{シニ}ま^{シニ}ら^{シニ}の^{シニ}本^{シニ}を
ま^{シニ}かな^{シニ}り^{シニ}ま^{シニ}ら^{シニ}ほ^{シニ}と^{シニ}り^{シニ}ま^{シニ}も^{シニ}あ^{シニ}を^{シニ}ぬ^{シニ}白^{シニ}虫^{シニ}目^{シニ}を

の中一子^{アハカシ}何房^シ返とて好皇^{アハカシ}成つ子^{アハカシ}せめ奇
かめて^セ政道^セおとかしをぬふ^セ教あり^セまゝいさ
世六丈^セ東^セ西^セへ九^セ町^セ南^セ小^セへ五^セ町^セ大^セ和^セ下^セ子
あす^セ丈^セの^セも^セさ^セか^セふ^セを^セあ^セて^セも^セ程^セを^セよ^セま^セぬ
ほと^セな^セり^セう^セへ^セま^セを^セか^セま^セの^セ日^セつ^セを^セあ^セふ^セ下
を^セし^セ金^セ銀^セを^セも^セつ^セて^セみ^セつ^セ式^セた^セて^セさ^セら^セし^セ荆^セ刺^セを
燕^セの^セ指^セを^セり^セら^セ志^セん^セぬ^セや^セう^セさ^セも^セん^セ志^セま^セら
う^セひ^セを^セも^セつ^セて^セお^セ下^セの^セ階^セの^セ不^セま^セあ^セつ^セけ
お^セつ^セあ^セま^セら^セし^セお^セ由^セ志^セの^セを^セひ^セた^セぐ^セし^セま^セを^セみ^セく
志^セん^セぬ^セや^セう^セま^セし^セく^セと^セも^セう^セひ^セた^セれ^セの^セ下^セ是^セ

を^セあ^セや^セし^セて^セ燕^セ陽^セ孫^セ叛^セれ^セん^セあ^セり^セ刑^セ人^セを^セし
三^セ見^セれ^セお^セつ^セつ^セよ^セの^セ正^セ君子^セを^セ刑^セ人^セを^セ
つ^セつ^セす^セ逆^セ行^セを^セし^セす^セお^セつ^セら^セ死^セす^セらん^セす^セら
み^セら^セな^セつ^セと^セい^セぬ^セと^セ荆^セ刺^セお^セた^セら^セぬ^セけ^セて^セ燕^セ陽^セ金
孫^セ叛^セれ^セん^セた^セく^セ田^セ舎^セの^セ中^セに^セま^セお^セれ^セを^セ
ら^セけ^セて^セ皇^セ后^セを^セな^セれ^セさ^セる^セの^セゆ^セへ^セお^セん^セじ^セつ^セ建
悉^セす^セと^セい^セひ^セた^セれ^セし^セその^セ時^セ信^セ下^セと^セつ^セま^セら^セぬ
よ^セつ^セて^セ皇^セ后^セを^セち^セら^セつ^セけ^セた^セなり^セ燕^セの^セ指^セを^セか^セら^セう^セひ
み^セん^セ志^セま^セら^セう^セひ^セを^セ見^セま^セし^セい^セれ^セく^セ雨^セ下^セ指
島^セの^セ入^セら^セる^セ指^セの^セ庭^セに^セ杖^セ乃^セや^セう^セな^セら^セぬ^セの^セま

けるを昭皇帝所授してやうてふらんとう
めんもけいの法袖をむすすとひのへまの袖
を袖にさうめてたるとをりうとそを思いた
つりける教系は軍格を冠上は袖をつくぬと
いふともきくりんとすするよ力なりたてあめ
君達臣も犯さ進させ給らんまをたけ
まあへんごせり昭皇帝のまは哲武の能は
さ變ふ舌は琴の音をと一度まうんとまへ
あけりつちししんをりしまらぬ昭皇帝
ま三十人れ舌張りら給へまそのの中は花

陽文人とて双たき琴の上におりてまはま
乃まんれ畜をまきしたまきまをぬくふ乃心
もまらうれとふ鳥もばら茶本もゆるを計
たわゆらんやとけりさるる穀守まうれへ
じとなくくむふぬふるさうりあしまは
まけの荆刺もりうるをうたさまきくをそ
もさうがとんと孫臣のあくろもまやたゆ
みにまうその力あまうて一曲の奏を七
尺の屏風を片のくとま押くらもたうの紙
あくまう一条れ程あくまひりまなこの紙さ

らんとうそひきいぬふ 荆柯をあられをさくさく
よめ皇帯をさく知て 浮神を引まわつて七天
の屏風を折やると 斬ありのねの柱れりきへ
りきかゝるまき勢終きるとも 阿けいひのいつ
て 叙をなきりもなまら 切つとや 以およ番の
醫師のゆひひつりの 叙も 薬乃あくるをなき
あもさくらと 叙薬乃めく 詠を然られぬは
六天乃あうく ねのくく 詠半まてく切
たりたれけつりの又 叙をぬく 詠をけくい
てもなげきと 王だちり 包けて けり 叙詠

よきて 荆柯をい 所まに ころ 志ぬひけ 詠
陽謀も うきまぬ やうて 友軍を けり けり
慈丹とも けろが さう けり けり けり
と 白虹日 誅貫て 通らん 泰好皇を 道て 慈丹
けぬよ けろひる けり けり けり けり けり
さう けり けり けり けり けり けり けり
わりけり けり けり けり けり けり けり けり
治元 十二月 父左馬 殿の 孫及よ けり けり
よ 誅き けり けり けり けり けり けり けり
永曆 元年 二月 廿日 小東 嶺 小嶋 へ けり けり

モリガクアラキヤ

て二十餘日春枯とてつらむにむすも
あまのこころのけりあはれしりのなり
うて孫叛をいれおさきさるるやうに
雄の文と人れすくめりさきけりよ
てかり採るの文と申る渡邊を藤原を將
監軍を子の藤原盛重とて上西門院
乃高なり十九のころおろしお
終りおいてんころ終りといふ
つりほこれ大事やらんたつとみんと
六月廿日のまもゆるつと照るに成行山

の藪の中へしつらむにむすも
まにゆきあぶる敷う終りなるといふ
かかよひやとて付てさういふと
まともちつとも方をさるるあ七日
まを起もあつらひては日といふ
記上て終りといふ是程の大事や
人ふとてさうま程なくむすを命も生
つふと云圓をや安平ふさんなれとて
而終りよころおふまれ終りへ
をじしき終りまらつたるみふ

大勢あるうきふをわけつゝみよふうなれ
いさむ七日よふたもさふまふなふとのうき
まをそとめてきこまらうもりひたれいみる
人方れ毛よたつてもものいりす又跡は分よ
ふり立てそうふれたる中二日と中よい人
の童子さふめて文受の左右の手柄把て到
あらんとは流くもあまはれつとあふて何
つゝそすさ日と中よまらうのなくたわぬ
蠶を織うとやびんづと拵ふうらと蠶二
人たよのうんうらと下らをもめてよに寝

ふりうらうと流すをもつて又受う頂上よ
まらうのうきも是れ流すうたれうらふい
うらまえてたて下さを流くも文受ゆあ乃ん
らして息がぬたをけおとさまらうとむと
あくらけてあまをさねるつりなる人まを
まらうと受をひらきあまをまらうとひ
たれら二童子あまをまらうとまらうと我を是
大聖不幼明王の流すのひ小幹迦羅割多伽
とつふ二童子なり又受と乃歌をおあ
勇猛のゆきを全流ゆりくちりうと頭あをき

種徳^{セリ}乙皇の汚^ケや^ケさ^ケ和氣^ケ清^ケ友^ケの遠^タたりし
伽藍^{カラン}なり^カび^カき^カし^カは^カ流^シ道^カなり^カの^カり^カう^カも^カま^カを
かす^カよ^カなら^カふ^カめ^カて^カ杖^カを^カさ^カり^カま^カり^カし^カり
病^{トシラ}を^カ風^カふ^カた^カふ^カま^カり^カ着^カ紫^カの^カ下^カす^カら^カら^カい^カら^カい^カ
う^カや^カる^カ露^カふ^カら^カう^カさ^カま^カて^カ佛^カ壇^カさ^カら^カう^カあ^カら^カい^カ
かな^カい^カ恒^カ持^カの^カ信^カも^カな^カま^カれ^カま^カれ^カま^カら^カい^カら^カい^カ
もの^カと^カて^カを^カた^カく^カ月^カ日^カの^カひ^カの^カり^カま^カら^カう^カま^カら^カい^カ
父^カま^カつ^カふ^カり^カし^カて^カあ^カめ^カて^カう^カを^カ流^カ道^カと^カん^カと^カ志^カ
大^カ致^カ致^カし^カ勅^カを^カ帳^カを^カ山^カく^カま^カり^カ十^カ方^カ檀^カ那^カを^カ
す^カく^カめ^カめ^カり^カを^カけ^カし^カ丹^カ或^カ阿^カ院^カ汚^カ雨^カ流^カ行^カる^カ汝^カ

つ^カる^カ事^カ一^カら^カ汚^カ毒^カか^カめ^カる^カつ^カる^カ曲^カと^カ妻^カ受^カを^カ
汚^カ遊^カの^カお^カり^カや^カう^カて^カま^カこ^カし^カし^カめ^カも^カり^カれ^カ
さ^カり^カた^カれ^カる^カ文^カ受^カを^カり^カし^カる^カ里^カ不^カ敵^カ才^カ一^カ人^カ慈^カ
ひ^カ一^カ里^カて^カを^カあ^カり^カ以^カ前^カれ^カう^カや^カか^カさ^カや^カう^カを^カ
志^カら^カま^カり^カて^カた^カく^カ人^カれ^カ甲^カの^カま^カぬ^カう^カや^カん^カゆ^カく^カ
是^カ他^カた^カく^カ汚^カ坪^カの^カう^カり^カへ^カを^カう^カり^カり^カる^カ大^カ言^カ祥^カ
を^カあ^カま^カて^カ大^カ慈^カ大^カ慈^カの^カま^カり^カて^カま^カり^カま^カり^カ是^カ
や^カと^カれ^カあ^カや^カた^カら^カう^カの^カ食^カ入^カさ^カる^カを^カま^カら^カう^カて^カ勅^カ
を^カ帳^カを^カ引^カひ^カら^カけ^カる^カ序^カの^カら^カり^カお^カら^カう^カら^カう^カた^カ
う^カま^カれ^カ油^カ添^カ文^カ受^カ致^カ白^カ珠^カ精^カ義^カを^カ結^カる^カ信^カ助^カ成^カ

高僧勅上下去借上品蓮華法海建亦少是王
其場也又高僧山堆義智山抄若果銷商山
洞若若泉咽引布嚴精遊技人墨是至置茶
師歸好有信人地新勝不可崇佛天在可小雅
不助成國中發沙為佛塔切極忽感佛因况於
一紙半紙其財其遠立成枕全圖鳳屬所取必
滿乃之邪邪意之人氏緇素親愛無不為之
持持養并會以物入至其幽微亦極大小速也
一以去門之卷必額之者美極之月仍勅在後
以類蓋以也却治取之直三月日之是とこ

高僧勅上下去借上品蓮華法海建亦少是王
其場也又高僧山堆義智山抄若果銷商山
洞若若泉咽引布嚴精遊技人墨是至置茶
師歸好有信人地新勝不可崇佛天在可小雅
不助成國中發沙為佛塔切極忽感佛因况於
一紙半紙其財其遠立成枕全圖鳳屬所取必
滿乃之邪邪意之人氏緇素親愛無不為之
持持養并會以物入至其幽微亦極大小速也
一以去門之卷必額之者美極之月仍勅在後
以類蓋以也却治取之直三月日之是とこ

うらうそのきされたつとや一はあす一を母畜
 院太政大臣コホイ浮世遊ウラわうとら一郎孫ヲウラのそたう
 さまをおくし一ます探察アゼツク大御を質方ナケつ拍子ウチを
 て風俗フウゾク儀馬イバ樂ガクうとらる子息コシ太馬タバ執質シツ時トキ曰
 位侍イハヒ盛盛モトモト和琴ワコトのまなうししつとやうと
 且とつとようとつとまきり玉のそとれみ一ま
 の帳チヤウれ中一まをいもさうとつとあまのほけを祿ロクと
 たり一ろつとつとれいほ望もほもあせさう勢お
 っ一ますうれよ女メ受の太畜タウあう出デまを調テウ
 子コもつとひ拍子ウチもみかそとつとまよとつとりなふ

ものそヲ籍セキがわ外ソト致チカほをと作ツクくさくお
 ほととろつとわりけ事院中コトノチノナカれとやと男オトの老
 ともの建タテさう記キよくとつとみかけつと中一
 子資シ以判イハ友トモとつと小者コモノすもみ出デて何ナニ条ジョウ子細コトバシ
 を中ナカそ勅ツクきてあふそまうとらおふとつとひけ
 建タテし久キウ受ウケ雄ユウの神カミ後ノチちへ老ラウを二ニ兩リウよりをう
 れあうむつとつとら全ケンのノま一とつとてとら
 つとよつとてうとつとひをほつとつとすれも勅ツクを
 帳チヤウをとらまをし質ナケめ判イハ友トモの忠チユウかう志
 願ガンしたとつとつとておれとつと巻マキをほよくふふ

建好くそ志めらるまきらまよをとくねた力
うへよなりたるよなりとろひわひけら下
城上下ありてしこりうよええのまこ
其下此ちやうを持してまきらまらひ外へ
むふ出りく麻の下部はたふぬくひけらる
ひけはくまめく清雨のゆくとあまう大
言あうをあまきくまかをうと志結しゆく免
あまうと人えんりくよあまきやとまや幸因
を思をゆひけましたくとおまひーらま中
さんすらものな三累をみふ中書なりたま

とつふともつりてつりその縁をまけつれん
三派十善の希位はかこつたうとも貴衆の
よひよおなんのらを牛頭馬頭のまをま
まわつ建好くしゆをまけつりまのつま
う中けらあのは師幸性なり禁獄をよとそ
まさんあくきく不賢の別友をよかううら
ゆとまきくらるらりあまーまにましーん出
仕もまこりたり安藤あ光をええとんしゆ
勅貴よ一賜証へすして苗座よたまるえう
なま建けるその法義福門院やくまきう勢終

て大教^{シヤ}のりしうし文をばしなくゆさささ
たり誓^{シラク}やいけくもたとなふうのう
を又新を帳をいけく十本檀那をすくめ
のり子まらるのあしなくもなくしてあつ
まれのをの中をくつてみくまを
を居もともよわろひうきんする物をなと
りやうおむろろくまの中をけりて法
師^{シヤ}やこよをきてあつてまらるる
伊豆國つうなりのささけりて源三位入道は
子伊豆守仲経うれあつて南無^{ミナモト}を
あつて伊豆國へあつてまらるる

あつて伊豆國へあつてまらるる
三人をそはあられくまのちりて
下郡のなつひのやうのことおほき
まのけりくものさくまらつて
知人たりら終るぬりて伊豆國へ
よお産^{サナ}料^{リウ}のあつてこの福をも
いひたれし文をそとやうに
ゆきやなりさなりぬるも
意やあつてさくまを
ねもけりて紙をふりねて

是れをいふてつやう此のまよひのか
をやうなうとそなたを返す所つめてて学紙
をたつ祿て専ら安なるらんくく暖て法師
を捕を専めぬそをけつりきとそつて
お格又えさう高雄の神護をさしはらふ
めお勅を帖を持てす本極那をすく災あり
まろろろ町らふ見れ世りもあふてな
をさう志た下ささうお下つてさう
られてつつののたへまろろのさ
たてろろを也さんらうけうことふれ
お

大切ふ山はけのひおたんとつふまろろ
てさう稚波つて書ろへまやらん清水の親
善坊へつてけつろふろさる盛乃下部を
さびろたさうとつひたれとさうとて
受を親書をさうぬらうたのそをされ
てさ誰りのを用本一をもつふつさ
ろろさうおほとよ伊勢國の聖はらう
ろろさうろの意江國を誇なうろろ
風おろ大波立て既よあのみをうら
とと水主権取ともつろろ色さ
ろ

ひしき事とも叶しともいふことあり
を或を親言れ名考なとる人成を義故乃十
念舟をよりよき事とも又是やちともさうこの
に船座よりまいむふういてそやうらうけ
ふもてよつうとみえいともさ岸波とたき舟
のるさ流よ立て奥の町へ流あうまへ大船
あうそあきく詰まやあふくともを呼ぶる
けうなたとくしうやうよ大船にありける至
のふらう船をいあやまうもやすすらう只
とそりせめ教らん流神ともつふとそぬひ

きうそのゆへやなを風ほとなくしうま
つそ伊豆國よりつふふたる又是京をりく
ける日よりしうんの中より初控すること
わりきうと我部よりゆけりも雄れ神護もさ
供養とんくんと死ねへうと此類しき
りるるくやるもて死ぬしとて兼らう伊
豆へけふけらうそ物系野風打りたり
けうひ嶋たひしと母一日の風や一向
食よてそあつらうとさきとも氣力とさうも
からんたこるひうらうそをさうなる誠

1611

まぢく人々をばほくぬや其松ほろりも
つものら文先をて南國任人を藤田麻園高
子保て奈六屋のちくろうすま登けうさる
禮は普衆依波おしと蛇小嶋も頼ちし
又又つゆを集り清ものりてとも中ける
とうさきこし一或阿久芝普衆依波も中ける
ち平亂もや小松大臣没しう果報ものてた
う清らうつこととを剛ふましくし運命の
すもよならやらん去逐れ八月あうきられ
ぬとや藤平の中し清道祖も下の為軍の

お持し人々なりともやく稗教記させ給
て日本国志しうを清人とりひかれし普衆
依波う連思ひもよくてつ連を故地禱尼も
たすけられ奉た連しう此思を指さんたう
よ毎日法数經一教轉讀志をもつらほのを
又傳事なりともを盡ひけう又又のさねて夫
のあさあるをとらうさねて却てそのとら
うくやさむておあねはまきしつる外てを
目ささしひを更としふお文ありやうお中
まし清道の清心をのぬひしんとてしとや

にやしのさきゆら来うれ舞てをゆつす先
清るん乃たあま志のあついで換をそこま
とて懐らま白布は清くみくらとくろをひ
とつとらまのこを共縁依教われをりのうと
まををささくう清つんて父故左馬頭没乃
りうへよ平治れ後を獄令のあれ岩の下
うけおれてほをさふらふ人もたりのうを
又是存するひのまを獄あるあひくひふ
あまこまの清めしてあめ女館逢のる
ゆゑひをぬれしとをささくして一初とうの

い清つんすうんささくしお頭殿の清たあま
をさくもをこのものまをゆそつらやま
まされい共縁依没一をとおが尋ねてを父
のうへへおまきくならつてさたふつなみさ
をそがりのささくたのるあつて共縁依没後
を押つてまひけえ押執朝勅勅をゆりま
てまのりてりの縁叛をまはとす人まをまへ
しふまうれやまいほくのあやなりやつて
の不清そやゆをまじ共縁依ぬあま
てまのり力も勅勅乃力まてあかぬる人の事

らうみりやてあめりひろり小養字き
まらにけれも法皇おがまに法感きてや
て院意をそらこまきけるふきうあんで
らひのき又三日とりふまを伊豆園へ下
るはく共束依ぬ生れ法房のなる志ぬなる
ことり出で頼朝又りのなるうま目よあも
まらみとおももことあう業しはく
まておつらるは日とりふ年別よまら
はめてらも院意ふとてまふ共束依没後意
と夢のく志けなきふあらうま之かう

淨衣を着自水うひせし院意を三度録
してむくきなり項直以降平氏夢に王位
無^ト改^セ為^ス欽^ス被^シ威^ス佛法^ニ礼^ス朝^ニ滅^ス我^ノ神^國也
宗^ノ廟^ヲ並^シ神^徳惟^ニ新^故の^廷昇^基故^チ教^ヲ餘^ノ嚴
圓^ノ欽^帝希^歎危^團亂^者皆^無不^以爲^小徳^也
但^レ神^道之^冥助^ト也^勅意^之旨^ヲ願^フ子^孫傳^平氏^一
數^返約^カ亂^者欽^帝建^護代^ヲ侍^兵略^抽累^禮在^云
忠^勅可^立身^眞家^老位^意如^法仍^執在^如件^治
殿^下至^七月^十日^所在^共傳^習之^終在^謙上
亦^志無^儀依^没也^その^くま^らは^院意^を

さきまのゆくりよのまて石橋山の合戦
れとまも兵集依汝らひよりあられけり
うさこころいさるほと小福原もまの跡
まそつと一日もせいりけりぬさる
三討をを下さるしとて大將軍もを小松
控亮少将維威副將軍もを薩摩も忠彦大
将もを上総も忠清をさるしとて都台その
勢三萬餘騎九月十八日辰の一黙よこ
を立てわく子十九日小を薩部小けふや
て回女日東國へとう都のまされ大將軍小

フシカワ

松控亮少将維威を生さサコとうまい
い繕もろくとも華をなひひてま代のふ
そたりの唐皮とりふらひを唐控よ入て
のきく子跡中を赤地乃録れひさた
小前着れとらふらひを連録毛なり
馬も全体幅のくくをとりけり
將軍薩摩も忠彦を録地乃録の忠彦も忠彦
城乃録を思さるのやとうま
りりけちのくくをひてまの馬籠ら
ひふとら勢太力のひなふり

襦カキほとよ出たきまこれをもめてうのつら見え
物有り中一もあくとやうらんさつまの
うも忠なるまあるまらう乃女もうれを
とへ毎もれけらう或はあたりたり小世
女房はけかねるやんやなな女房ニラフ人來
てさよもやうくあもゆくまをり給し
正忠彦キおふやとらひあふふをわらう
うもまされいの女もう燈もさすそとく
ひの畜うとあふよくらすさひ終つて解
結けのひやもてそつるられけらうれのら

おらうらうけらあつちやをなたとて解
をしけのひやみそやとつまされまの
お卯のまうなとまをひあともさしてこ
うあふさなるけうひ屋をてしらのとを
さまらるその後らの女房カキあまれりといへ
小袖を一重けのつすとて子墨の名跡の場
さた一首のあをさうてそをくられけら
あつまらの茶茶をまきじ袖うらも
たぬぬあまれあうふがけく
さつまのつとらぬまら

よりんちをなにのなきうんあしてゆ
きこもせうしのかとくせつし

笑もひのしりたとうの取事へ先祖平将
軍貞盛将門追討のたのま書へ下向志
つし事をおもひ出せうそとらるるやい
とやさううそさこころじうを初敵を大
つらんとて外おへせうふ將軍をまら系
由して弟刃を終らる震威南波よお汚し
てを遠潜下し一件を列内弁外弁此公孫系
列して忠義此節書をおあゆらる大將軍副

將軍をのく礼節をたくりうして一途を汚
らる承平に慶入殿泣もくひさううなる
ておろくへかすしとて慶を横波も平正
威の赤馬馬ち海親追討のたのま書
る下向せし物とて終つらるて皮乃あくる
子の進て難色うらひよりあさせてそらる
られけうしうへ初敵をほろかさんとして部
を出る將軍を三汗の存知り弟刃をた下
らる日。死ねわすれ屍をいけらる書子を
ますれ戦場うして敵よくくふ呵力を忘

ふさねといふは平氏に大將軍維盛忠度も
さういふやうに事をなして存なきられた
こときんあもまじなりしこと共なりをのこ
九重の都を去て千里の東海へ趣オモムりたり
たつしつみおつるものならんこともふあや
まのやうな事なれど或る野原の落し着て
つらと或る序の竹の若よしひねをく山を越
河をまよつて日敷あれや十月十六日おわ駿
河國清見う笑ふうつふぬふうやこをこ三
美館跡ておくれとも路次ミチにけしものめ

くして七美館跡とを中としお仲ら蒲原セハラ
富士河ふすくみ恒件やいゆるも新ニす川の登
おらくへうと大將軍隆亮が將維盛侍大政
上総も忠清をのりてあれもりの存タなきを
足柄北山うりうもひろみへいてく勝負マタを
せんともやられもまじとも上総も甲けも福
魚頭汚たち山ひりとも入る敵の存もをい
くさをもし忠清もまの勢もせぬ人ともう作
以傳連保豆駿河のせいのもるつあかたにこ
いまもえいといつす汚本の汚變や七美館跡

野も山も海も河もこれ我々の所なる本
川て人れ中作はるる源氏乃侍せし女百
とこら中ひつれと申されし上総もあれ
心うや大將軍乃侍心のれひさせ侍ひら
ほとくら朽くるとけらことをたうつ一
日もされよ打を下させぬひううも大
足中島山の一族たうりあうてうへ
たふ事りらう伊豆駿河に渡り皆侍ひ
るうつとけらるものごとく後悔すれ
なご大將軍権亮少將維盛坂系れ
栗岡忠と

て長井奇藤の南夷感^セうううう
おとの秋自の苗圃もやりの程あるう
流人を併藤利苗あさ^ワてさうへん
感^チを大勢とにやしめさまゆよ
も十之粟をうけり侍人美盛種村
を茶園もをいこも佐坂系り大
ちやう乃者の十五末もを
もとら乃侍よさも志た
人しやもりひかやう乃
を種八二とあやみやうの
をてい

山大名一人して百騎をとめてもつら
作りす馬おきておのふみらをとくす悪
を廻^マまとするを傷^マあといくさる又親もつ
まよ子もつこまらぬまをけりあましく
たくりふの兩國のつくさとしりをもつこ
勢いもす親うられぬまを引くさるに佛事
孝養ししつみあきてうを子うたまぬま
そのうまへかけさとしよをゆりす兵糧^{ラウ}米
けふぬれも春を田川より枯を断^マたすのそ
らせまをあけしといとひをさるじいとい

らひの坂東の軍と申をさへてその勢い
を甲斐信濃の保成も粟内も知らる富士の
すうらり搦^{カラ}手へもふつるといりんすうんの
やうに申をさし大將軍の侍心を勝^マせをま
せんとも申とやあつしつさまはらんうれ
減てまゆもさうれゆへをさるれいりさる
命いさる二つひもやこへまらししとも存
作つすといさるささいれぬがまをさるま
りすさることいはるさるさう申つて
うんと申をれとらるをさるものとも

あるひを致くさあへんきりさるほくも回
十月廿四日の卯刻より一汗まで源平の争
あもきとそさるめけりやうく廿三日の
朝より入て平亂のほしもれとも徳茂は陣頭
みまきし伊豆駿河の人民百姓おのりく
さにならうもそ威を聖よりつと山よびくれ成
る身よとるよきて海河よりうりびくらの受
乃大にえとけりや平亂れ無ともきりそ聖
も山之海も川もろの成老てわりたりつ
きんとう何されけりそ成の成半つらも富士

の治よいころもありたり水鳥其のなめく
つる押と致さたりきん一夜ふころとだち
けり羽畜れりの序り大風なとのやう丹三
あもき建し平亂れ無ともわらや源茂の太
破りむつふころを所る并藤頼朝の甲はさ
やう子甲斐信濃は徳茂おし一のすうらる
つらつてへやまらるよらんとらとあられ
てる叶まら客をばらて尾張河内侯をあを
けややてとら相とらと何へもつ建さるれよ
とそ源のふきらつらまらとよあしてさうつ

弓とる老を矢を忘る夫を忘る者や弓を
らけ馬の馬を人よのられ人のじふよを我
家残やけおつてふるよ踏て絶えしを井頭
絶くつておつてまふまふしをさるのさるよ
遊者遊女ともつてあつたあつてひさうも
まらうつておつてあつてあつてあつてあつて
おつてあつてあつてあつてあつてあつて
同女曰これお別お係氏女百踏しつて推
らせて夫もひく絶大地もゆるるるるる
ゆきゆき三ヶ夜はくまらるるるるるるる

をともまする人をついでんをたれん或を敵の
忌まらるる絶えつてあつてあつてあつて
乃すつてあつてあつてあつてあつてあつて
絶えつてあつてあつてあつてあつてあつて
を無束佐つてあつてあつてあつてあつて
ううひをしてあつてあつてあつてあつて
絶えつてあつてあつてあつてあつてあつて
大業の汚らうらひなりとをまひけるるる
つてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
亦也損益江國をい安田之原勢をい新らるる

均の不足りふ入さお國ちさ小想て惟盛を
し冠衆の嶋へたりのを了忠清ををし死ねよ
はこな人としを意ひきるあまこふあつて同九
日本家の侍老が衆會して忠清の死後乃事
いのとあるつあかと辨をせまする判友威國を
出せあめの忠清を日來不足人とを存ゆつす
あまの十六れととあかしの島羽返れ奉
登り一五ふ由一の経路二人送終たすしを
よつてつと絶たや中もの一人と作をさるし
志よあめたなくまよ只一人白晝よほりひち

とあしもし中入て一人をし打取一人をし搦
あてるを後代よあをたまり老ろつとと度
此事へ只事をあが身依つす是よはきても
終く其仇の清懐く人しとせ中ける同し
十日陰目にあめあつて権亮少将維盛左を
侍中一将ふあつて里ゆふさねとと度打自れ
大将ととを以てささせあつてさるもあ
志をささまこ何乃勅貴うやとらうんとさう
やふあめれける若年將軍欠盛あつて藤左
秀郷の門を討のたあ小名書へ下向さる

つゝのとも朝敵たやとうわろひひのつゝ
しつゝもつ愈後まそそ治民部つ忠文清忠
主藤軍監とつ小月をぬきつゝふほとよ駿
河國清見笑る者志とつしける者時藤清
つゝ海上をき見して海舟次新き崎浪磯路
終なる東色山とつ小夜方を片のらつゝは
号結つし忠文清よ笑えて感懐とつうなりと
進りつゝさるほとつ忠感秀つ胸門をふはぬ
よ打とつてたりそののひとつもつまての不
子程よ駿河國清見の笑とつゆとつあひたる

ろ進りたりお後の大將軍うらほ進て上洛に
貞感秀つよ勅賞おあゆつ進たり阿よ忠文
重なる色勅賞あるつゝかつや乙師愈後あり
しつゝし九条忠義お師捕乙とつ藤原へ討自
むつよつとつとつ朝敵たやすうほろ
ひひつゝつとつ取つあめんつ勅定を承て笑
れ在へおもむくとつまてつゝ既よかろひ
つゝつとつ進し忠文重なる色勅賞なり
おへつとつしつさ勢強へともその阿れ執柄小
聖ま没頼つしとつとつなとつとつたつれと礼

祀の又ふらんとして行わよかき諸酒と
史文に述ぶるに朽一とて小野文成
の清すをし奴よみふさび九條汝此清未
あつ川のをまへてちと護神となす
ひけく終よ于苑よころを死よたれさ
九条汝の清すをそのてなりありへ
あても小野文成の清すをを結る
もあつ一とてを結るてのひけり
入道乃曰男歌中一将手漸左を
よめり王ぬふささほとよ十一月十三日福

取よめをゆ霧芝出さ述て主上清遷
大嘗會にふころつらうの
を十月の末末河よ清幸とて清禊あり大内
の川の野より税廬不所清の神服神具
をとく新小大極殿に於終尾道の壇下
給殿を建て清湯をのす日壇に
改を池て神儀にうたふ震
且大極殿より大礼あり清
あつを樂院うて嘉あり結るを
の新都よを大あくてんをを
大礼

かゝる人きやうもなりせいの志よたうもお
も違し清かくくそくす人ふあもたうそ樂
依をなきわく義會もおこふられはとてを
たぐ志ん志やう志立條のりあふつあふ
ふつ愈強あつてなほ新黨をく舊部は神
祇鍛えてそとけられけり又節やあれ淨見
魚のそれつそより致くまやまて月志あを
尚もけしつり無汚心をまきまて琴を淨
清し神女あふたり又衣袖をむるつ包
すあまう又そほの始なりと考れ部うけり
三ヤカリ

をい君も信を斜なるを清教のりきり山宗
致はけし致して読む社よつこふまを結る
包うくさるり一福中らとせれいさくもらこ
紙を破られ志未改入る致さくくまふり包
りあるししとて同十二月二日依小部を
いりたり新部を小ら山ふりひてつりな苗を
海をくしてなされり波人をこつりあつた
ひそくを塩風しけしとふなりさ進く新は
いつやかく清惚れを志けつるをきれあふな
ぶつていろふ福慮をおさせおしませす中

又一院も清寺なる指^{サシ}政^{セイ}政^{セイ}をさしめをて左
邊大居士下^カの郷^{キョウ}お書^シお^カの建^{ケン}もしくと上^ウ上^ウ
めよ平^{ヘイ}政^{セイ}右^ウ政^{セイ}入^ニさ^スをさしめをて一^{ヒト}門^{カド}の人^{ヒト}
人^{ヒト}み^ミを^ヲ上^ウられ^レたりさしめう^ウの^ノ上^ウ上^ウの^ノ新^{シン}郡^{クニ}
また建^{ケン}の^ノ所^{トコロ}向^{ムカ}もの^ノこ^ノお^ノつ^ツか^カよ^ヨあ^アの^ノ新^{シン}郡^{クニ}
さ^サれ^レ舟^{フネ}く^クと^トを^ヲ上^ウられ^レけ^ケる^ルあ^アは^ハや^ヤと^トさ^サ
池^{イケ}波^{ナミ}へ^ヘ汚^{ケガレ}筆^{ヒツ}な^ナら^ラゆ^ユ筆^{ヒツ}を^ヲ立^ツ条^{ジョウ}曲^{クワク}裏^{ウラ}と^トを^ヲ穿^ス
さ^サし^シ去^サ六^{ロク}月^{ゲツ}より^{ヨリ}上^ウを^ヲと^トも^モお^オこ^コこ^コが^ガら^ラを^ヲさ^サ
と^トの^ノ上^ウた^タて^テら^レた^タ上^ウし^シと^トも^モつ^ツか^カ又^{マタ}も^モの^ノ相^{ソウ}
と^トし^シう^ウふ^フち^チの^ノも^モ又^{マタ}ふ^フり^リあ^アり^リた^タれ^レし^シな^ナお

乃^ノさ^サし^シう^ウを^ヲ及^ツり^リす^スら^ラれ^レう^ウら^ラす^スく^ク上^ウ
建^{ケン}つ^ツの^ノさ^サの^ノく^ク着^ツ取^リも^モた^タく^クし^シて^テハ^ハ指^{サシ}政^{セイ}政^{セイ}
塚^{ツカ}右^ウ奈^ナ西^{セイ}山^{サン}東^{トウ}山^{サン}北^{キョク}の^ノく^クあ^アと^トつ^ツお^オ付^ツて^テ或^{アル}を^ヲ
汚^{ケガレ}筆^{ヒツ}の^ノ曲^{クワク}裏^{ウラ}を^ヲ社^{シャ}の^ノ裏^{ウラ}波^{ナミ}た^タし^シる^ル立^ツや^ヤや^ヤ
て^テを^ヲ修^{シユ}る^ルへ^ヘか^カん^ンと^トも^モま^マし^シく^クけ^ケる^ル採^{サイ}と^ト度^{タク}れ^レ
さ^サや^ヤこ^コ修^{シユ}る^ルの^ノ本^{ホン}意^イを^ヲつ^ツお^オと^トつ^ツお^オる^ル舊^{キウ}郡^{クニ}を^ヲ
山^{サン}奈^ナ島^{シマ}を^ヲく^クして^テ柳^{ヤナギ}れ^レ事^{コト}も^モ色^{シキ}日^ヒ吉^{キチ}乃^ノ神^{カミ}興^{キョウ}意^イ
日^ヒれ^レ神^{カミ}本^{ホン}な^ナと^トつ^ツお^オて^テを^ヲら^ラか^カく^ク新^{シン}郡^{クニ}を^ヲ山^{サン}
陽^{ヨウ}と^ト上^ウ江^{カガハ}ま^マて^テほ^ホく^クも^モさ^サす^スう^ウ意^イた^タれ^レる^ル左^サ務^ム
の^ノ事^{コト}も^モた^タや^ヤと^トの^ノま^マあ^アし^シと^トを^ヲ入^ニ道^{ダウ}お^オ團^{ダン}を^ヲ


~~~~ひかさま達らうけううや甲一さ共三  
日を江源氏れそじふししそきめじとて大  
の軍もや左兵衛督<sup>カミトモ</sup>威徳摩ち忠彦部合を  
勢二美館<sup>ミツナ</sup>あふみの國へ森向<sup>モリムク</sup>と山本柏木  
緞織<sup>ジュウシ</sup>なとつふあふま源氏ともせめだう  
うれううやうて美濃を結つうらうられけ  
子<sup>コ</sup>うやこもをス一とせさう念文園城もへ入  
済のやさく我をまうけあふのせ成をほひの  
ひふあう系<sup>ヘイ</sup>もつて朝敵なわあ志の達を  
なうとも羨<sup>ヒヤメ</sup>らううしとささうのうう<sup>カサカサ</sup>南都

の太直おひお~~~~<sup>ホツキ</sup>蟻<sup>アリ</sup>記<sup>キ</sup>と掃<sup>ハク</sup>改<sup>カク</sup>改<sup>カク</sup>うり存  
知のむひあ~~~~い~~~~<sup>オモ</sup>昔<sup>イノチ</sup>も羨<sup>ヒヤメ</sup>ううう及<sup>キ</sup>こ  
つや伝下さ達<sup>チ</sup>きれとも直<sup>チ</sup>流<sup>リウ</sup>一切用有らぬ  
冥白<sup>メイハク</sup>あうう済<sup>ジ</sup>はらた及<sup>キ</sup>れ切<sup>キ</sup>直<sup>チ</sup>成<sup>セイ</sup>を下さ  
達<sup>チ</sup>らうけうを大直<sup>オホチ</sup>記<sup>キ</sup>う系<sup>ヘイ</sup>物<sup>モノ</sup>ううと及<sup>キ</sup>て  
お~~~~と~~~~<sup>オモ</sup>里<sup>リ</sup>きれとひ~~~~<sup>オモ</sup>免<sup>メ</sup>出<sup>デ</sup>成<sup>セイ</sup>文<sup>モン</sup>  
を失てゆき上<sup>ウヘ</sup>か決<sup>ケ</sup>う太直<sup>オホチ</sup>門<sup>カド</sup>替<sup>カ</sup>親<sup>シン</sup>雅<sup>ヤ</sup>を~~~~<sup>オモ</sup>  
~~~~<sup>オモ</sup>はらうとれい~~~~<sup>オモ</sup>も~~~~<sup>オモ</sup>と~~~~<sup>オモ</sup>里<sup>リ</sup>きとひ~~~~<sup>オモ</sup>め  
~~~~<sup>オモ</sup>れを取<sup>ト</sup>も~~~~<sup>オモ</sup>と~~~~<sup>オモ</sup>あ~~~~<sup>オモ</sup>る~~~~<sup>オモ</sup>への不  
られ~~~~<sup>オモ</sup>その~~~~<sup>オモ</sup>院<sup>イン</sup>の難<sup>ナン</sup>食<sup>シキ</sup>二<sup>ニ</sup>人<sup>ニヒト</sup>うこ



とくつとまゝにれてきり南部よを又ちさなり  
鞠下此玉を袖てきり入き大お困れ取と  
名はきてうて母先なとそ下きる相の決志  
やとさきし禮を指し嫌なり言葉の懐さるを  
被をとるるなりとより掛下とも承見し入  
さお困や南今の取廻りてたつてまする連  
をりやうよ中ける南部此大前尾を己魔の  
取るとう見え入るお困とくする南部の  
強幼を弱めんとして漸尾古取兼康を大お困  
れ換物取し補きし取お揃て高流を振替を

いゝすとも海ホを被とるゝす物具をさ  
そ弓矢を帯さうやて所つけはき連たりあふ  
をなんとの大前町ら因城をさしとて  
兼康の館張六十餘人のめあて取取斬て  
積津此池のこさうのりあ並へらつけ入  
道お困大三に想下さうし南部をもせあ  
やめて大將軍もを取中一将手漸中文老通  
盛部合も築口美館張南部へ舞白を南部よ  
と老かふくしと七十名人甲の結をりあ  
良坂取あち二箇取の路を堀切て撞撞りこ



延茂<sup>サカモト</sup>本<sup>キ</sup>引<sup>キ</sup>て待<sup>マ</sup>りも<sup>チ</sup>ら<sup>ニ</sup>平<sup>ヘ</sup>亂<sup>レ</sup>回<sup>ル</sup>美<sup>ノ</sup>子<sup>ノ</sup>孫<sup>ノ</sup>を<sup>シ</sup>二  
自<sup>ラ</sup>よ<sup>ク</sup>わ<sup>ケ</sup>つ<sup>テ</sup>な<sup>ク</sup>あ<sup>の</sup>般<sup>ニ</sup>あ<sup>る</sup>二<sup>ヶ</sup>所<sup>の</sup>城<sup>ヲ</sup>  
塙<sup>ヲ</sup>推<sup>シ</sup>ら<sup>せ</sup>て<sup>シ</sup>ら<sup>せ</sup>ば<sup>と</sup>い<sup>ふ</sup>に<sup>も</sup>他<sup>ノ</sup>け<sup>る</sup>大<sup>將</sup>  
を<sup>シ</sup>安<sup>立</sup>打<sup>出</sup>や<sup>官</sup>軍<sup>ヲ</sup>を<sup>シ</sup>馬<sup>ヲ</sup>を<sup>シ</sup>然<sup>マ</sup>り<sup>一</sup>  
あ<sup>の</sup>も<sup>進</sup>し<sup>大</sup>將<sup>ヲ</sup>を<sup>シ</sup>盡<sup>シ</sup>つ<sup>テ</sup>い<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>り<sup>し</sup>  
卯<sup>刻</sup>ら<sup>う</sup>と<sup>夫</sup>合<sup>シ</sup>て<sup>一</sup>日<sup>ヲ</sup>戦<sup>ハ</sup>ら<sup>し</sup>無<sup>キ</sup>に<sup>つ</sup>つ<sup>と</sup>  
な<sup>れ</sup>な<sup>ら</sup>ず<sup>さ</sup>ら<sup>う</sup>般<sup>ノ</sup>あ<sup>る</sup>二<sup>ヶ</sup>所<sup>の</sup>城<sup>ヲ</sup>と<sup>も</sup>  
破<sup>レ</sup>ぬ<sup>落</sup>行<sup>ハ</sup>ぬ<sup>法</sup>の<sup>中</sup>に<sup>は</sup>こ<sup>の</sup>の<sup>口</sup>永<sup>平</sup>  
と<sup>い</sup>ふ<sup>無</sup>僧<sup>の</sup>り<sup>き</sup>ち<sup>力</sup>乃<sup>ハ</sup>強<sup>ク</sup>も<sup>打</sup>出<sup>ス</sup>と<sup>い</sup>ふ  
ても<sup>七</sup>大<sup>と</sup>十<sup>と</sup>夫<sup>と</sup>大<sup>と</sup>ち<sup>に</sup>勝<sup>ル</sup>ら<sup>し</sup>前<sup>ノ</sup>美<sup>子</sup>城<sup>ヲ</sup>破<sup>レ</sup>る<sup>程</sup>

舟<sup>ヲ</sup>是<sup>レ</sup>急<sup>ニ</sup>城<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>も<sup>を</sup>ま<sup>り</sup>て<sup>そ</sup>急<sup>ニ</sup>た<sup>り</sup>し<sup>け</sup>ら<sup>う</sup>  
志<sup>甲</sup>小<sup>五</sup>牧<sup>半</sup>乃<sup>ハ</sup>結<sup>を</sup>し<sup>め</sup>ち<sup>し</sup>美<sup>子</sup>城<sup>ノ</sup>あ<sup>の</sup>を<sup>シ</sup>  
よ<sup>う</sup>に<sup>し</sup>ら<sup>う</sup>白<sup>柄</sup>大<sup>長</sup>刀<sup>ヲ</sup>是<sup>レ</sup>儀<sup>ノ</sup>大<sup>長</sup>刀<sup>ヲ</sup>  
志<sup>甲</sup>の<sup>手</sup>小<sup>も</sup>つ<sup>ま</sup>く<sup>よ</sup>固<sup>着</sup>十<sup>名</sup>人<sup>ヲ</sup>後<sup>に</sup>左<sup>に</sup>  
に<sup>た</sup>て<sup>し</sup>て<sup>し</sup>撞<sup>カ</sup>れ<sup>し</sup>門<sup>ノ</sup>を<sup>シ</sup>打<sup>て</sup>か<sup>つ</sup>ら<sup>し</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>し</sup>を<sup>シ</sup>誓<sup>ヒ</sup>  
さ<sup>ら</sup>う<sup>へ</sup>ら<sup>う</sup>あ<sup>の</sup>が<sup>ら</sup>し<sup>の</sup>友<sup>兵</sup>馬<sup>ノ</sup>是<sup>レ</sup>な<sup>り</sup>の<sup>ま</sup>り<sup>し</sup>  
易<sup>ク</sup>に<sup>進</sup>め<sup>り</sup>し<sup>も</sup>友<sup>軍</sup>を<sup>シ</sup>大<sup>破</sup>す<sup>て</sup>入<sup>ル</sup>  
易<sup>ク</sup>に<sup>進</sup>め<sup>り</sup>し<sup>も</sup>友<sup>軍</sup>を<sup>シ</sup>大<sup>破</sup>す<sup>て</sup>入<sup>ル</sup>  
小<sup>次</sup>り<sup>永</sup>平<sup>ノ</sup>城<sup>ヲ</sup>破<sup>レ</sup>る<sup>程</sup>に<sup>あ</sup>つ<sup>た</sup>り<sup>し</sup>に<sup>威</sup>  
し<sup>ら</sup>う<sup>と</sup>力<sup>及</sup>つ<sup>た</sup>す<sup>處</sup>を<sup>シ</sup>指<sup>し</sup>て<sup>そ</sup>後<sup>に</sup>け<sup>る</sup>友<sup>軍</sup>



よなりつて大將軍殿中の重湯の般あるの門  
のありおきて暗さるるを知らず火をおきおき  
ついで播磨國住人福井老の下目次第大支那  
方とつゝお指をひきし續松をひきて左家より火  
をそとせらるるに二月廿八日辰時  
正に火をひきし物部國を烈しく炎をひきしけり  
これ其頃建小園よりおかきれ伽藍より吹りき  
しうし死をを思ひしをも朽しむ程の老を奈  
良坂より討死志願あるをうしてうたれりけ  
りし頃小町るる者や吉野十津川の本つう

後ゆきまら歩みもしぬ老練や為常なるは  
孝老兒とも女童部をりやちとりのとと  
佛波山階より肉へり建えりてそ入けり  
大佛波の二階の上より十名人の不可あつり  
り敵の所くをて登りしとて階を引てたり  
猛火をもちし一押然とつたのふさきを母拜  
焦竈大魚焚き間何鼻始代座の箱人もこ  
りやをひし心そ見しと奥福をを流海ふり  
新藤氏累代乃ちなり本全堂子にありあり  
佛法苑初め釋迦の像を金堂におりありあり自



佛浦出乃親を善彌陽を双了し四面に席坐  
丹を交了し二階の揚九福を子輝し二番  
の塔忽小燈とならうらうらうけ進來大寺  
る者在不滅黃指殊克代生方の清佛と切り  
のつかそらへて至南皇帝子自みりさたて  
終一途廻十六丈乃高遠那佛鳥懸たりく  
まて中夫の言も隠ま白毫のうらに殊まれ  
さ勢のう満月の言密をみくくを燒おらて  
大地のあり清方を鑑會て山入くくい百  
四寸乃お好を拈た月もやを又至の言り

隠れ四十一塊れやうらくを東の星しり  
う十魚の風もたうら子燈を中て小満て  
船を塵室も福をなくまのあささみをら者  
を又子眼を南も登もつて人をして眼を  
去つては法おえ揚れ法門を教とく一巻も  
ゆらぬ我朝をのふみ及びすそ望震りも  
是禮の法滅を了しともおほくもうてん大  
王女思慮室をみりま既次鞆摩の赤梅檀を  
別も終り尊者の清佛なり況や是を南園  
浮提代中子を唯一壺答此清佛なりを朽











